



善正寺だより

〒:512-0902
 三重県四日市市
 小杉町1014
 浄土真宗
 本願寺派
 善正寺
 ☎:059-331-1670
 fax:059-332-0733

掲示板法話

心の悪循環に陥らず

柔軟に生かされる念仏の道がある

コロナ、コロナで明け暮れたこの一年もあつという間に師走を迎えました。大切な家族を亡くされた方々には、お念仏もろとも心からの後悔やみを申し上げます。

新型コロナウイルスの感染防止措置により、施設や病院に面会も制限される中、最後のお別れもままならないまま、大事な人とお別れせねばならなかった場合もあったでしょう。また、感染拡大のために、厳しい経済的影響を受けて廃業に至り、「ご無念の思い無理からぬ場合もある」と思われます。感染者が出たために、いわれなき非難、中傷を受けて泣く泣くどこかへ引っ越しされた家族もあったそうです。誰でも感染の可能性があるので、誰かがウイルスを憎んでも人を憎まなことが肝要です。目に見えぬウイルスへの恐怖心や長引く巣ごもりみ他人を傷つけるのです。

だが、心の悪循環に陥ることなく、自由無碍に生かされる道があることを親鸞さまは教えて下さいました。「念仏者は無碍の一道なり」(『歎異抄』第7条)。その意味は「念仏とは、妨げられるものがない、ただ一筋の道を行くことである。念仏を信ずる者には、神々でさえも丁寧に接して下さり、悪魔や間違った信仰をもつ者たちも念仏の道を歩む者を邪魔だてすることはできない。念仏はこの世の罪惡も、その報いをも超越した世界であり、またどのような善行とも比べようのない絶対的な道である」(五木寛之『私訳 歎異抄』(東京書籍)と言われる。

芭蕉や蕪村と並ぶ江戸時代三大俳人の一人、小林一茶は継母や義弟との相続争いに苦勞し、後年相次ぐ子供や妻の死別に泣き、火事で住処も消失しましたが、
 とまかくもあなた任せの年の暮
 という句を残しました。ここで「あなた」とは仏さまのことで、北信濃の浄土真宗門徒と言われます。晩年の独り暮らしの寂しさや貧困の中でその厳しい現実を背負いながらも、自然法爾(じねんほうに)という親鸞聖人の生き方に通じる無碍の一道を俳句に詠み込んだと言われます。阿弥陀如来の



☆行事ご案内☆

◇お内仏報恩講

12月5日(土)午前10時半

コロナの為、お参り後の会食はお持ち帰り弁当
 秋勤進の時に出席のお返事伺います。ご家族複数
 のお申込み可。電話でもOK。短縮版でお勤め



◇秋勤進 11月23日(月・祝)午前8時より

行事、世話方、住職が手分けして巡回。お内仏の
 出席伺います。「秋勤進」とは初穂米代りの懇志です

◇絵手紙教室 12月8日(第2火)午前10時、56回目

◇キッズサンガ 12月5日(土)午後4時、鐘撞き毎夕5時

◇歌声喫茶 12月17日(第3木)午後1時16回目、本堂で

◇除夜の鐘 12月31日夜11時45分より

誰でも撞けます。ご家族お揃いでお越し下さい。

◇元旦会 1月1日午前9時より本堂で正信偈、住職法話 庫裏で年始座談、新年のスタートはお寺から!

◇善正寺ホームページ「三重善正寺」で検索、一年分の
 寺報閲覧可。毎日更新「住職と坊守のつれづれ日記」
 大好評。開設12年4カ月で33万2千訪問、コメント、
 お悩み相談大歓迎、即返信。

一線会テレホン法話059・354・1454で3分法話

新納骨堂：後継者の無い方お墓でお困りの方ご相談下さい

法事場所でお困りの方：本堂使用可、寺にご相談下さい

写真アラカルト



アップリケ、絵手紙、絵画...



鐘つき後、「ちかい」等唱和



コロナ禍の報恩講；検温、広い間隔、外注のお弁当等

「任せよ、必ず救う」のお心に任せて、
 お念仏の仲間たちに寄り添われなが
 ら苦難の人生を全うしたので。
 そんな真似はできないよ、と言われ
 るかもしれませんが、生きてる限り、
 地球上どこにも逃げ場がないので
 から、この災禍を冷静に受けとめ、柔
 軟な心で生かされて参りましょう。



坊守スケッチ

「任せる」ことは「信じる」と



あなたは自分の老後を誰に任せますか？「わが子には迷惑を掛けたくないから、施設にお世話になる」という人が案外多いのではないのでしょうか？今まで会ったことも無い人への世話をされても平気ですか？「相手はそれが仕事だから仕方ない。その為に毎月高い介護保険を払っているのだから」と開き直るしかありません。

近頃都会では死後誰にも看取られずに、数カ月経ってから発見される孤独死が増加。身内が居ても長期間関係を断ち、寂しさに慣れた独居老人。直葬で送り、故人の生きた証は何だったのでしょうか？死は終わりかもしれませんが、遺された者にとって始まりでもありません。別れたことよって、亡くなった人の言葉が響き始めます。

死を粗末にすることは、砂漠を彷徨する人が、目印になるものがなく、進べき道がズレていることに気付かず、さ迷い続ける生き方に似ています。

私自身も亡き実母の介護を通して、自分の老後の姿を予習しました。亡き後の方が、生存中よりも母と心の中で対話する機会が多くなりました。

ところで報恩講の講師さんから「任せる」という事は、相手を信じて一切口出しをしない事」と教えて頂きました。在家から寺に嫁いで白紙状態の私

に前坊守は「あなたのエゴのようにやりなさい」と言いました。本堂の花立ても、お非時の料理も、「門徒さんとのお付き合いも、全て任せました。

今から思うと、自分の命が短いことを悟った姑が先手を打ち、未熟な私への教育方針だったと気付きました。

またこの講師さんは「任せた以上は、あれこれ注文を付けてはいけません。たとえ失敗しようとも、笑われても全てを引き受けていく事です」と教えて下さいました。決して放任主義ではなく、そこに至るまで温かく見守り育てていく姿勢も大切だと気付かせて下さいました。若院夫妻や孫達にも日々の生活を通して、お念仏の薫る家庭の大切さを育てていきたいと思えます。

俳壇
眼閉じ喉越し通過大根汁 釋妙水
しなる枝手折る指先柿ひとつ
御在所や伊勢湾抱き秋の空
金木犀分身敷き詰め土肥やす
松葉先光る真珠や秋の雨
落葉降る枝に小鳥の見え隠れ 釋葉邦
触るたびほろほろこぼる零余子かな
団栗を踏む音楽しアウトドア
遠足の足取り軽し天高し 釋清風
木犀や花と香りに深呼吸
マスクして同朋唱和報恩講
真心と笑顔の集う菊日和

☆若坊守の育児日記②

今年の報恩講も無事終了し、ご尽力下さいました皆様に御礼申し上げます。運動会と文化祭の振休と重なった長男と長女は、二日間フル出場してくれました。コロナ禍でお非時が持ち帰り弁当に、マスクの着用、法話の短縮など変化が多々ありましたが、子どもたちが一番興味を持ったのは非接触型体温計でした。おでこや腕にピピッとするだけで体温を計れる優れもの。

前日から「僕がやる!」、「私がやる!」と取り合いになるほどです。結局は二人計ったら交替と子どもなりにルールを決めて、本堂の入り口で検温係を務めてくれました。

今回のご講師の守快信先生のお寺は、私の中高の同級生の嫁ぎ先です。我が家と同年代の子供さんもいて、友人の奮闘ぶりも聞かせて頂きました。中学時代からの友人なので、かれこれ二十年以上のお付き合いです。

まさかこんなご縁が出来るとは想像もしていませんでしたが、同じ環境なので、離れていても若坊守同士、共に励ましあう心強い存在です。今後共どうかよろしく願います。

コロナ禍で大きく変化した日常ですが、変化しないものもたくさんあって、それらが私たちの心の拠り所になっています。



☆カンパありがとう

山中ツヤ子様、関崎敦子様、野里美也子様、若松重子様、阿曾香代子様、川内八重子様、谷口恵子様、辻忠雄様、他匿名様より頂戴しました。感謝!

☆お悔み申し上げます

佐藤信幸様(10月19日往生・63歳) 合掌

☆ホットニュース

※善正寺若院(渡辺潤爾)が新刊書上下巻2冊発行。「戦国大名と方言ツーリズム」(三学出版2千5百円+税、著者割引き有)戦国時代の歴史を違った視点で執筆。表紙絵が2冊共小3の息子(亮爾)が担当。本堂しんらん文庫にありますので手に取ってご覧ください。
※12月5日(土)前10時半にお内仏報恩講「例年通り庫裏四間で間隔を開けて短縮版でお勤めします。お持ち帰り弁当を用意します。準備の都合上秋勸進の時に欠のお返事を頂きます。ご夫婦での申し込みもOK。電話でのお申し込みも可。(059・331・1670)11月末までにお返事下さい。

☆編集子より ☆

「善正寺だより」324号をお届けします。◇新型コロナウイルスに戸惑い、恐れ、鬱々と明け暮れたこの一年も早や師走。冬の訪れとともに恐怖再来、ワクチンや如何に?問うても誰も答えられない。◇法要、行事も三密避けての試行錯誤はいつまで続くのか?◇前例踏襲を捨てて、柔軟な変革をいとわず共に歩みたい。ご愛読深謝合掌。

私は年に二回歯石を取りに行きますが、今年はコロナで秋の一回だけ、先日「奥歯の古い詰め物が将来虫歯になるので銀歯にやり替
えついでに一番奥の歯も不用なので抜歯します」と言われました。「可
待って下さい、痛いもない歯を抜くのは嫌です」と抵抗。結局詰め
物だけ治療しました。知人が「そんなの歯医者金の儲け、別の歯
医者に変わったら」と忠告。途中で変わるの嫌なのでその歯
医者任せることにしました。私の友人でドクター、シンギンが好き
な人がいます。彼女は長年持病を患い、痛みから逃れたい
一心でネット情報を元に病院巡りをします。彼女の気持ち
分かりますが、医者にお任せする気持ち大事で、そこに救いの
道があるように思います。現代は医学情報が氾濫して、
我が力で解決できると思いがちです。しかし、科学技術が
発達した現代でも人間の力が及ばないこともあり、

仏様は私達が解決できない苦境に立たされても、きちんと
それを乗り越えていく道を授けて下さいます。「任せる」とい
うことは全てを「引き受ける」ことによつて道が開けること
です。初詣で神社仏閣へお参りしますが、私達から一方的
に「お願い」をするのではなく、「仏様から願われている私だ
と気付かせて頂き、無事参詣できた喜びのお礼を申し
上げましょう。今年はコロナ一色の不安続きの一年で
したが、一刻も早く終息して、安心して過ごさせる日々を
願って止みません。来年も善正寺だよりのご愛読、よ
ろしくお願い申し上げます。以迄至前10時半、お内仏報恩講
お参り下さいませ。合掌

令和二年十二月

善正寺坊守拝